

<金標準、財務省の介入警戒から 8800 円以上が抑えられる・・・>



(出所：オアシス)

FOMC や ECB 理事会、日銀金融政策決定会合などを受けた金融政策の違いを浮き彫りにした事から為替市場では、円ドルが昨年 11 月以来の 143.86 円まで NY 市場で円安・ドル高が進んでいる。特にパウエル FRB 議長は上下両議会で半期に一度の議会証言を行い、年内に 1 回から 2 回の利上げは肯定されると発言するなど、インフレ抑制の動きを持続する姿勢を見せている。またイングランド銀行やスイス国立銀行、ノルウェー中央銀行、トルコ中央銀行も金利引き上げを実施するなど、世界で唯一緩和策を継続している中央銀行は日銀のみとなるなど、円の独歩安は止める事が難しい情勢である。ただ昨年 9 月 22 日に財務省は 24 年ぶりの円買い介入を実施した様に急激な円安には介入の警戒感も強まると見られ、円建て金標準先物の価格を支援する円相場の動きには注意が必要となる事から今週の金標準先物は、8900 円を上回る場面は介入警戒から抑えられた値動きが起こり易いと思える。

<テクニカル>

金標準先物の日足の MACD や RCI では、MACD は **MACD** と **シグナル** が重なり方向性を示していない。また RCI は **短期** が下げながら、**長期** は維持するなど強気の域であるが、力強さが弱まってきており、**40 日移動平均線** が位置する 8764 円に向けた調整には注意が必要と思われる。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行ってください。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 3,250,000 円(2023 年 6 月 26 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 40,700 円(2023 年 6 月 26 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>